

令和6年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	総合企画部
日 時	令和6年(2024年)4月17日(水) 16:05~16:50
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、江島副知事、大杉副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 部長、次長(兼総合企画部管理監(大学連携担当)) <input checked="" type="checkbox"/> 管理監(広域政策・地方分権・万博担当 企画調整課広域政策推進室長事務取扱)、管理監(新駅問題対策・特定プロジェクト推進室長事務取扱)、管理監(高等教育振興課高専設置準備室長事務取扱) <input checked="" type="checkbox"/> 企画調整課長、万博推進室長、高等教育振興課長、国際課長、県民活動生活課長、CO ₂ ネットゼロ推進課長、人権施策推進課長、DX推進課長、統計課長

発言者	発言概要
総務部長	企画力の強化は大事。企画を担う職員の人材育成も重要であり、若い職員の育成にも力を入れてほしい。
企画調整課	国からも人材を出していただいております、若い力をしっかりと伸ばしていきたい。
知事公室長	広報課ではHPの更新を進めており、使いやすく、県民からの意見もくみ取れるものにしたいと思っている。DX推進課にも協力をお願いしたい。
DX推進課長	HPの更新については、一緒に進めさせていただく。
知事公室長	再エネの導入の促進について、「促進区域」は将来的には19市町まで広げていくのか。
CO ₂ ネットゼロ推進課長	「促進区域」の設定に対する環境省のスキームの魅力が薄いと感じており、国に対してインセンティブを求めていると考えている。県としても独自のインセンティブを考えていきたい。
大杉副知事	限られた人員ですべての国籍の人々に対応していることは評価する。しかし、依然として外国人の子どもが老朽化しても公的支援を受けられない建物で勉強したりしている実態もある。外国人の労働者を雇用している企業等にも協力を求めたりはできないか。
国際課長	企業からお米などの食料支援などをいただいている事例はあるが、本質的な部分での連携はまだまだこれからだと思うので、これからしっかりと進めていきたい。
大杉副知事	EBPMはとても重要であり、国の予算が削られているというなら、積極的に国への要望も行っていくべきではないか。あるいは、滋賀大学とも連携しながら国の新たな資金を確保する等のアイデアもあるのでは。
統計課長	国への要望も十分検討したうえで、現在はEBPMにおける滋賀大学との新しい連携について意見交換を行っているところ。国にはこれまでも支援してもらっており、今後は内製化や職員の能力向上など次の段階に入っていくべきという考えもある。また、和歌山県にある総務省のデータ利活用センターにも相談しており、新しい取組について積極的に検討していきたい
大杉副知事	県立で高専を設置する意義がどこにあるのかは説明できるようにしてほしい
管理監(高等教育振興課高専設置準備室長事務取扱)	2028年4月の開校に向けて滋賀県立高等専門学校基本構想2.0を目に見える形にしていきたいと思っている。
江島副知事	北部振興については、変わる予感が見えてくる年にしてほしい。
管理監(新駅問題対策・特定プロジェクト推進室長事務取扱)	北部振興については、スケジュール感を抑えながらしっかりと進めていく。見せ方についても皆さんと検討していきたい。
江島副知事	手のひらスマート県庁について、前回調査時に比べて電子収納化ができる業務がもっと増えてくる可能性がある。従来の想定を増える業務が出てくるかもしれないがしっかりと対応してほしい。
DX推進課長	電子収納については、100業務の電子化を想定しているが、もっと進めたいと思っている。一つの類型を作り同じような業務をまとめるなどの工夫で、100を超える業務が上がってきても、ある程度は対応できると思う。

江島副知事	再エネの導入拡大については、木が活用できないという課題もある中で、木質バイオマスの活用など、もっと新しいことができないかと感じる。
CO ₂ ネットゼロ推進課長	バイオマス資源はエネルギー量が低く集約するのにコストがかかるため、競合する化石燃料に劣っている部分もあり広がっていない。木質の吸収源としての機能や、廃食油の活用などの付加価値に注目することが重要と考える。CO ₂ の削減やエネルギーの導入について企業等と議論する分科会において、バイオマスを初めとした再エネを進められるようなきっかけを模索していきたいと思う。
江島副知事	バイオマスエネルギーが他のエネルギーに比べて効率が悪いのは理解するが、地域を元気にする題材にはなると思う。
管理監(広域政策・地方分権・万博担当 企画調整課広域政策推進室長事務取扱)	広域連合においては、個々の府県では解決できない課題をみんなで解決できないか、との提案が出されているが、提案府県だけがメリットを得るのではなく、滋賀県の利益にもしっかりとつなげていく必要があると感じている。
次長	部と部をつなげる役割をしっかりと進めていく。
知事	EBPMとしての滋賀大学データサイエンス学部との連携はとても重要であり、滋賀県の取り組みをもっと発信していこう。 手のひら県庁（電子収納）には期待している。 人権推進については、知ることから始まり、それが当たり前になるように。教育委員会にも、行動に繋がる人権教育をやるよう指示しているので連携してほしい。 CO ₂ ネットゼロに向けた取り組みについては、もう一段上げていってほしい。小さくても大きなものにつながることもあると思う。 犯罪防止対策については、再犯防止の視点を必ず入れるようにしてほしい。 商工観光労働部との議論でも「世界から選ばれる滋賀」を強調した。ジェンダーギャップの解消と多文化共生の視点を重視したい。企業も巻き込んで進めてほしい。 高専設置に向けた取り組みは強気に進めていってほしい。 北部振興については、種まきの時期が終わって、変わりそうだという期待を持ってもらえるように頑張っていこう。 万博については、「世界から滋賀」「万博へ参加」「万博から世界へ」の視点を持って進めていこう。 ナショナルデーに多くの外国人がやってくるとも聞いているので、滋賀に来てもらおう。 企画調整課の企画力には期待している。 関西広域連合長を預かっているからこそ、「滋賀県の行政がアップする」とか「視野が広がる」ということにも期待している。